

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目120分

## 解答形式

記述・論述・描図

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

全学科共通の設問と、医学科用の追加設問がある。医学科用の設問はやや難しい。

また、数学の力を要する問題や、図・グラフを描かせる問題、出題頻度の低いテーマが出題されることがある。

## その他ピックス

なし。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	問形式	力学・熱 (水中で直方体が受ける力、熱気球、浮沈子)	物理基礎 物理	問1は、水中で直方体の上下面が受ける力の考察。問2は熱気球。どちらも基本～標準の問題であり、難しくない。問3は浮沈子で、これまでと同様に、力の考察をする。(4)は、式を用いてもよいが、定性的な説明が楽であろう。 気球と浮沈子は、河合塾の現役生・大学受験科生の多くのテキストで扱われているので、類題経験があり解きやすかった河合塾生が多かったであろう。	やや易
2	問形式	電気 (抵抗内の電子運動論)	物理	(10)までは、ほぼ典型的な抵抗内の電子運動論の問題で、かなり易しい。ただ、速度や電流などが右向きを正とした符号を含んだ表現になっているので、注意。(9)のグラフは、微分してもよいし、グラフの重ね合わせ等から定性的に描くこともできる。(12)は微分して係数比較を行う。近年、微積分を少し取り入れることが多いので、過去問などで慣れておこう。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

基礎～標準的な問題は、素早く確実に解けるように。誘導が少なくても解けるようにしておきたい。さらに、医学科受験生は、様々な応用問題にも取り組み、多様な問題に対応できる力も養っておこう。また、微積分など、やや数学的な要素を含むことも多いので、慣れておくといだろう。答案には途中過程も必要であるから、簡潔な解答を書く練習もおこう。